



第70回国連総会におけるダ・ガマ・ギニアビサウ 国連常駐代表一般討論演説(2015年10月2日)要旨



※ 本文は演説の全訳でなく要旨です。また、本文の小見出し番号は当館において便宜上記したものである旨御注意下さい。

1 ギニアビサウ国内情勢

国連創設70周年と同時に独立42周年を迎えたギニアビサウは、いまだに安定した国家建設の基盤構築がままならず、様々な性質の国内問題の解決を模索している最中である。しかし、2014年4月の新政権成立以降、我々は国の経済を再生させるための基礎的な条件を整え、国内の平和と治安を確実なものにすべく努力してきた。2015年3月のドナー円卓会合で提示された国家開発計画「TERRA RANKA」は国際社会の強力な支援を得て策定されたものであり、現在コレイア首相のリーダーシップのもとで実行に移されている。また、右計画は持続可能な開発のための2030アジェンダとも連動するものである。

2 紛争及び難民

紛争の解決は国連が設立された目的の一つであり、今日の優先課題であると同時に最も困難な問題でもある。今日における紛争の発生及び複雑化の原因の一つは、一部国連機関の無策にある。中東での悲劇に際して国連が行動を起こそうとしないことは、政治的にも地政学的にも正当化できるものではない。今般の紛争に伴う難民の流出に際し、EU及び一部の国々が人道支援及び彼らの受け入れを実施していることを賞賛する。

3 安保理改革

現在展開されている16の国連平和維持活動のうち、9つまでもがアフリカを舞台としていることから、アフリカは紛争解決の過程により関与すべきである。安保理において2常任理事国のポストがアフリカに与えられ、また非常任理事国としてより多くの国がアフリカを代表して議論に参加すべきである。また、我々はブラジル、インド、日本及びドイツの常任理事国入りを支持する。

4 開発

貧困の撲滅、ジェンダー間の平等の推進、教育、社会格差の是正、環境保全は紛争予防の最良の手段である。また、持続可能な開発目標（SDGs）の実施に当たり、パートナー諸国による支援の約束の履行は、ギニアビサウを含む後発開発途上国や小島嶼開発途上国等の最も脆弱な国々にとって決定的に重要なものである。

5 米・キューバ関係、イスラエル・パレスチナ和平及びイラン核合意

今般の米国とキューバとの間の国交回復を歓迎するとともに、両国が二国間関係の正常化や制裁の完全解除に向けて今後も協議を継続することを奨励する。また、イスラエル・パレスチナ和平の関係者らがこの例に倣うことを望む。さらに、イランが国際社会との間で核合意に達したことを歓迎するとともに、当該国以外の国々がこれに続くことを望む。世界の完全な安全保障は核兵器の完全な放棄によってのみ達成される。

6 気候変動

気候変動は人類にとっての脅威であり、共通だが差異ある責任の考え方にに基づき、我々が皆責任を果たすことが重要である。我々は、パリで開催予定の気候変動枠組条約締約国会議（COP）において、国連加盟諸国が温室効果ガスの削減に向けて確固たる約束を形成し、途上国にとって必要な資金を提供するであろうことを確信している。

（了）